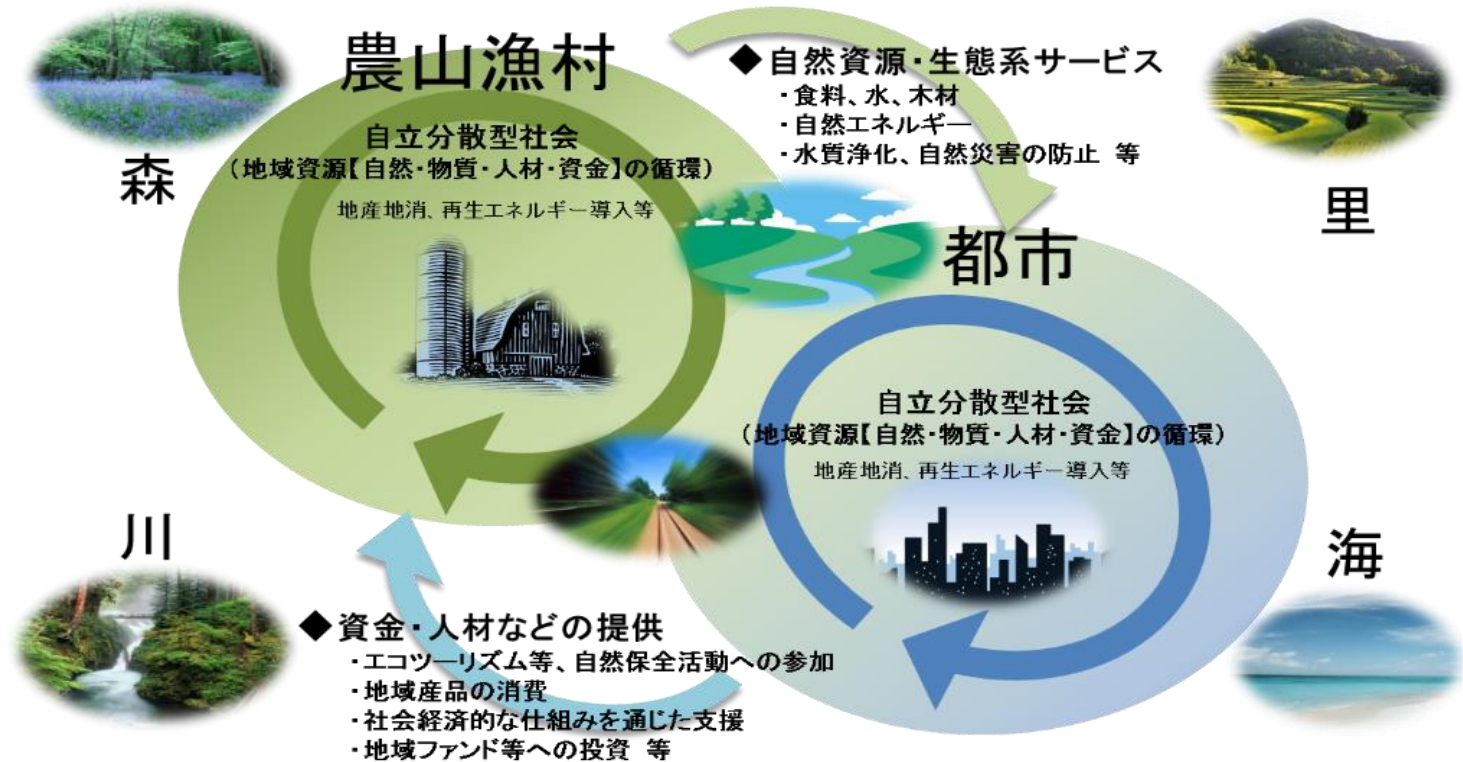


第五次環境基本計画の基本的方向性



地域循環共生圏

- 各地域がその特性を活かした強みを発揮
 - 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
 - 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**

地域循環共生圏とは・・・ローカルSDGs

各地域がその特性（課題・ニーズ）に応じ、**地域資源**を活かし、**自立・分散型の社会**を形成しつつ、近隣地域と補完し、支え合うことで創造。環境・社会・経済の統合的課題解決により**脱炭素**と**SDGs**が実現した、魅力あふれる**地域社会像**。



- 地域循環共生圏は、ローカルビジネスの創出や、地域経済の活性化・経済循環拡大にも大きく貢献
- 取組は緒に付いたばかりで構想ステージのものも多い。今後、Society5.0も活用し更なる異分野連携や統合的課題解決を地域ビジネスベースで進められるよう環境省もプレイヤーとして最大限活動

地域循環共生圏（日本発の脱炭素化・SDGs構想）

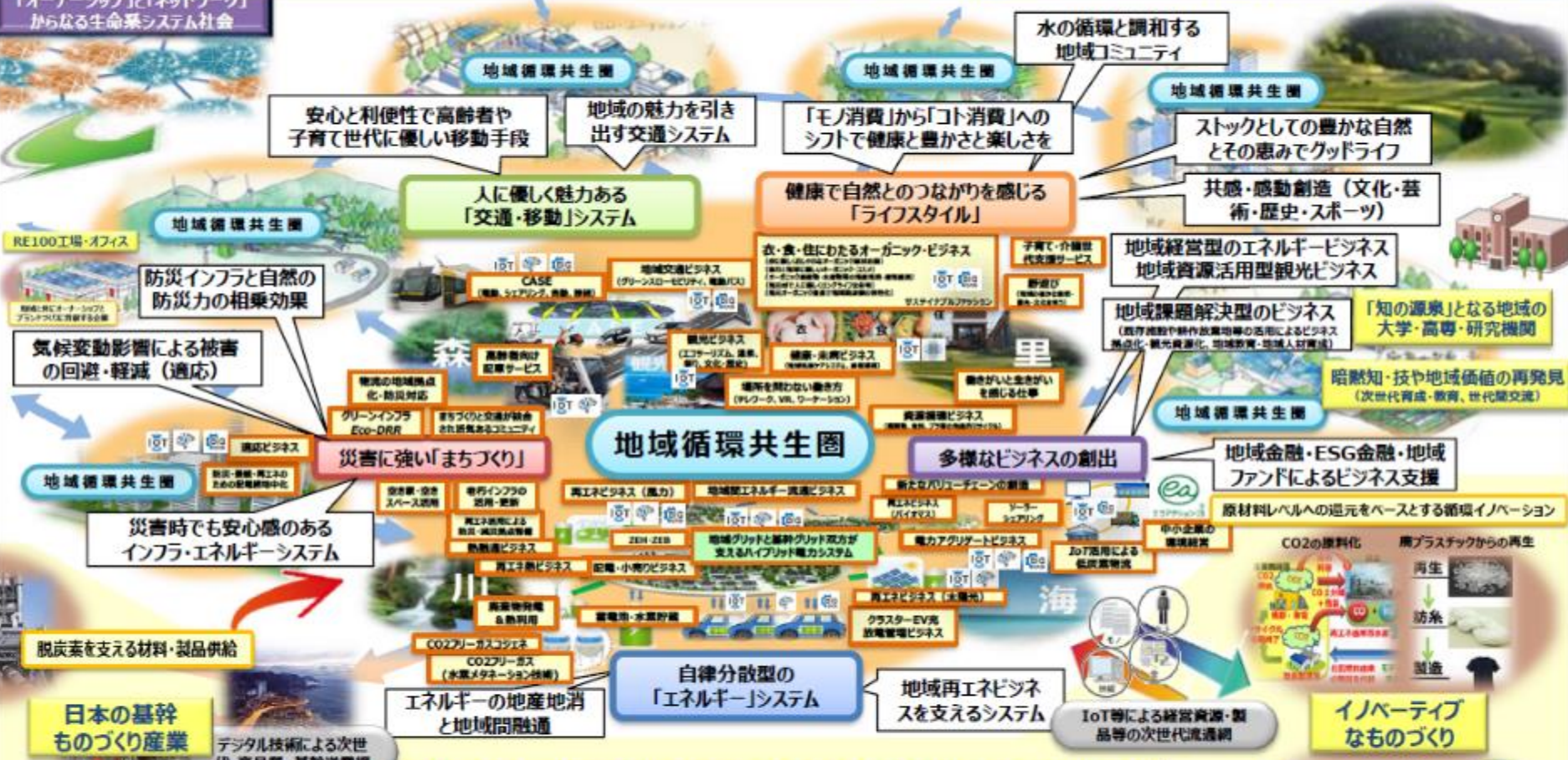
— サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム —

「自立分散」×「相互連携」×「循環・共生」= 活力あふれる「地域循環共生圏」 ⇒ 「脱炭素化・SDGsの実現、そして世界へ」
 「オーナーシップ」 「ネットワーク」 「サステナブル」 「人間の安全保障、次世代・女性のエンパワーメントを基盤に」

➡ **新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤**

人々が健康で生き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながら、他の地域とも有機的につながることにより、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。

「オーナーシップ」と「ネットワーク」からなる生命系システム社会



「Society 5.0」と人の生産性向上が創る「地域循環共生圏」



オーガニック素材をベースとする素材イノベーション

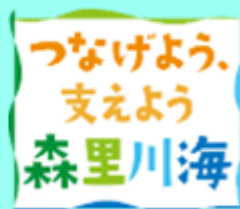
持続可能な循環共生型の社会



地域循環共生圏

= 地域のSDGs

: SDGsを地域で実践するためのビジョン



森里川海プロジェクト

= 暮らしSDGs

: 一人一人、一社一社がSDGsを取り入れるアクション

世界のSDGs達成も私たちの地域から、暮らしから

イノベーション

- ① 経済社会システム
- ② ライフスタイル
- ③ 技術

社会変革

パートナーシップ

国民、NPO・NGO、
企業、金融機関
地方自治体、各府省…

地域ニーズ

防災減災、高齢化対応…

地域資源

地域の再エネ、豊かな自然環境…

従来の大量生産・大量消費型の経済システム

環境省における民間事業者との連携

■事業活動を取り巻く動向（国内・海外）

1. 戦略計画 2011-2020と愛知目標
2. 持続可能な開発目標(SDGs)
3. ESG(環境・社会・ガバナンス)による評価
4. 自然資本への注目 Natural Capital Protocol

【環境省からの支援・連携】

- ・国際動向の情報提供
- ・アワード企画
- ・普及啓発
- ・ベストプラクティス収集
- ・ガイドライン作成
- ・エコファースト認定制度
- ・各種勉強会開催

産業と環境の会センター
生物多様性保全対策委員会(40社)

エコファースト推進協議会

企業と生物多様性イニシアチブ(JBIB)

生物多様性民間参画パートナーシップ

経団連・自然保護協議会 106社

事業者団体による取組

日本建設業連合会・日本製薬工業会・日本製紙連合会・電機電子4団体・プレバブ建築協会

■「生物多様性民間参画ガイドライン」(2009年作成、2017年改訂)

■「環境報告ガイドライン」
(2018年作成(環境経済課))

■ ISO14001が改訂され、生物多様性に関する国際規格が発効
(2015年)

民間参画ガイドライン

【概要】 生物多様性の保全と持続可能な利用に企業が取り組むために必要な基礎的な情報や考え方等を取りまとめたガイドライン。初版は2009年に策定。2017年に第2版を策定。

【構成】

- 要約
- 序論

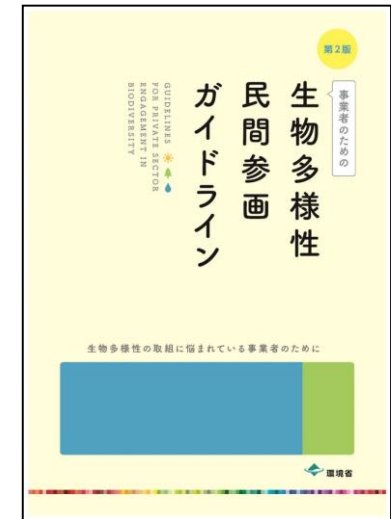
- 第1編 事業活動と生物多様性
- 第2編 基本的な考え方
- 第3編 事業者共通の取組
- 第4編 事業活動ごとの取組

【主なポイント】

- SDGs、ESG投資の拡大等の最近の動向を追記
- 事業者のバリューチェーンに生じるリスクとチャンス^{を概説}
- 業種ごと、原材料調達、生産・加工等の事業活動ごとの取組と生物多様性の関係を解説
- 事業者共通の取組及び事業活動ごとの取組について、取組ごとに、キーメッセージ、考え方、実践のためのヒント、事例^{等の基本的な考え方を解説（49事例）}

【普及啓発】

- 「生物多様性民間参画パートナーシップ」、「企業と生物多様性イニシアチブ（JBIB）」と連携。COP14、G20関連会議などで紹介

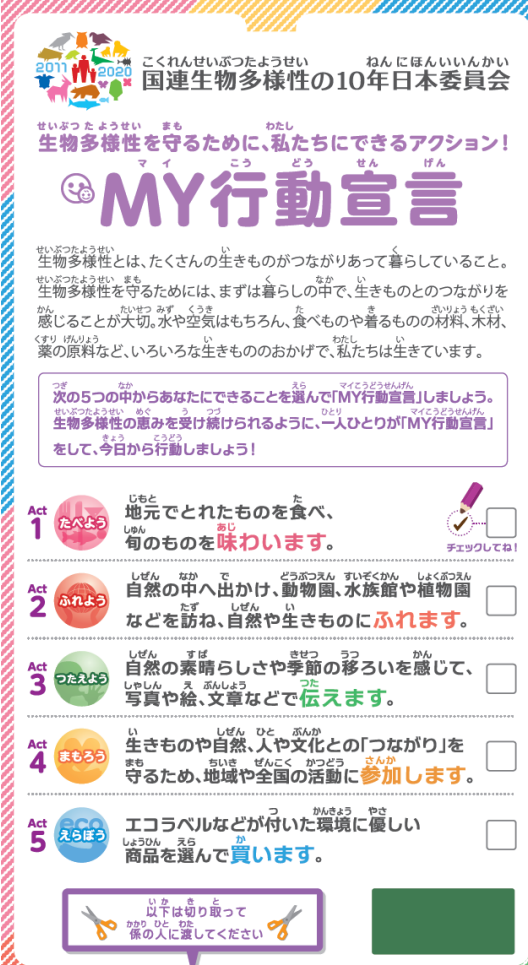


恵み豊かな生活を将来にわたって続けていくためには、 生物多様性を意識し、日常の行動を見直すことが必要。

MY行動宣言

○暮らしのなかで生物多様性を実感し、身近なところから生物多様性の保全と持続可能な利用を実践するためのキーワードとして、
5つのアクション「たべよう」「ふれよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」を提案。

○生物多様性の10年日本委員会(事務局:環境省)では、これらを行うことを宣言する「**MY行動宣言**」を推進。
(<http://undb.jp/committee/tool/action/>)



2011 2020 こくれんせいぶつたようせい ねんにほんいいんかい
国連生物多様性の10年日本委員会

せいぶつたようせい まも わたし
生物多様性を守るために、私たちにできるアクション!

MY行動宣言

せいぶつたようせい
生物多様性とは、たくさんの生きものがつながりあって暮らしていること。
せいぶつたようせい まも
生物多様性を守るためには、まずは暮らしの中で、生きものとのつながりを
かん じることが大切。水や空気はもちろん、たべものや着るものの材料、木材、
くすり げんりょう
薬の原料など、いろいろな生きもののおかげで、私たちは生きています。

つぎ うち
次の5つの中からあなたにできることを選んで「MY行動宣言」しましょう。
せいぶつたようせい まも
生物多様性の恵みを受け続けられるように、一人ひとりが「MY行動宣言」
をしよう
をして、今日から行動しましょう!

Act 1 たべよう じもと ちよとれ たべ、
しよん あじ 旬のものを味わいます。

Act 2 ふれよう しぜん なか で どうぶつえん すいぞくかん しよくこえん
自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園
などを訪ね、自然や生きものにふれます。

Act 3 つたえよう しぜん すば 季節のうつろいを感じて、
しやじん え 写真や絵、文章などで伝えます。

Act 4 まもろう い 生きものや自然、人や文化との「つながり」を
まも 守るため、地域や全国の活動に参加します。

Act 5 えらぼう エコラベルなどが付いた環境に優しい
しよかん えら 商品を選んで買います。

以下は切り取って
係の人に渡してください



たべよう

地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

「地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます」

→これらはエネルギーの消費につながる。

環境基本計画でも徹底した省エネルギーを推進している。

物質やエネルギー等の資源の投入を可能な限り少なくし、効率化を進めることで、環境への負荷をできる限り提言しつつ地域経済循環を促すことができる。

→地域の特色ある風土は、それぞれの地域固有の生物多様性と深く関係し、さまざまな食文化、工芸、芸能などを育んできた。

→その土地ならではの多種多様な食材についての知識を持つことで、自分の身の回りの生態系や環境の変化に興味を持つことができる。



ふれよう

自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

「自然や生きものにふれます」

→自然とのふれあい活動等の推進を通じた広報・教育・普及啓発

→豊かな自然に接し学ぶ機会を提供することが、次の世代を担う子どもたちの健全な成長のために必要とされるとある。

→自然体験を通じて、地域の特色や生きものの生態を実感することが、生物多様性のより深い理解につながる。



つたえよう

自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。

「写真や絵、文章などで伝えます」

→生きものについて、記録することで形や名前を覚え、周囲の生物多様性に気付く。

→自分が見た風景や感じた事を周囲と共有することで、その場に訪れていない人へ情報を伝え、自然や生きものを素晴らしいと思う仲間を増やす。



まもろう

生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や
全国の活動に参加します

「地域や全国の活動に参加します」

→ゴミ拾い活動や植樹活動などに参加することで、ゴミを減らす、緑を増やすなど、保全活動に直接貢献する。

→観察・調査活動に参加し、生きもの同士のつながりや、人の暮らしと自然のつながりなど「きずな」を実感することで、大切に思う気持ちを育てる。

→人が自然の一部であることを理解し、生物多様性の重要性を理解することで、人と自然の共生した世界を実現することが出来る。



えらぼう

エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

「環境に優しい商品を選んで」

→持続可能な生産システムと消費ライフスタイル

→環境に配慮して生産された商品を選ぶことで、環境負荷を軽減する。

生物多様性保全活動に取り組む企業を応援すれば、市場全体の姿勢を変える可能性もある。